

協議会ニュース

30号

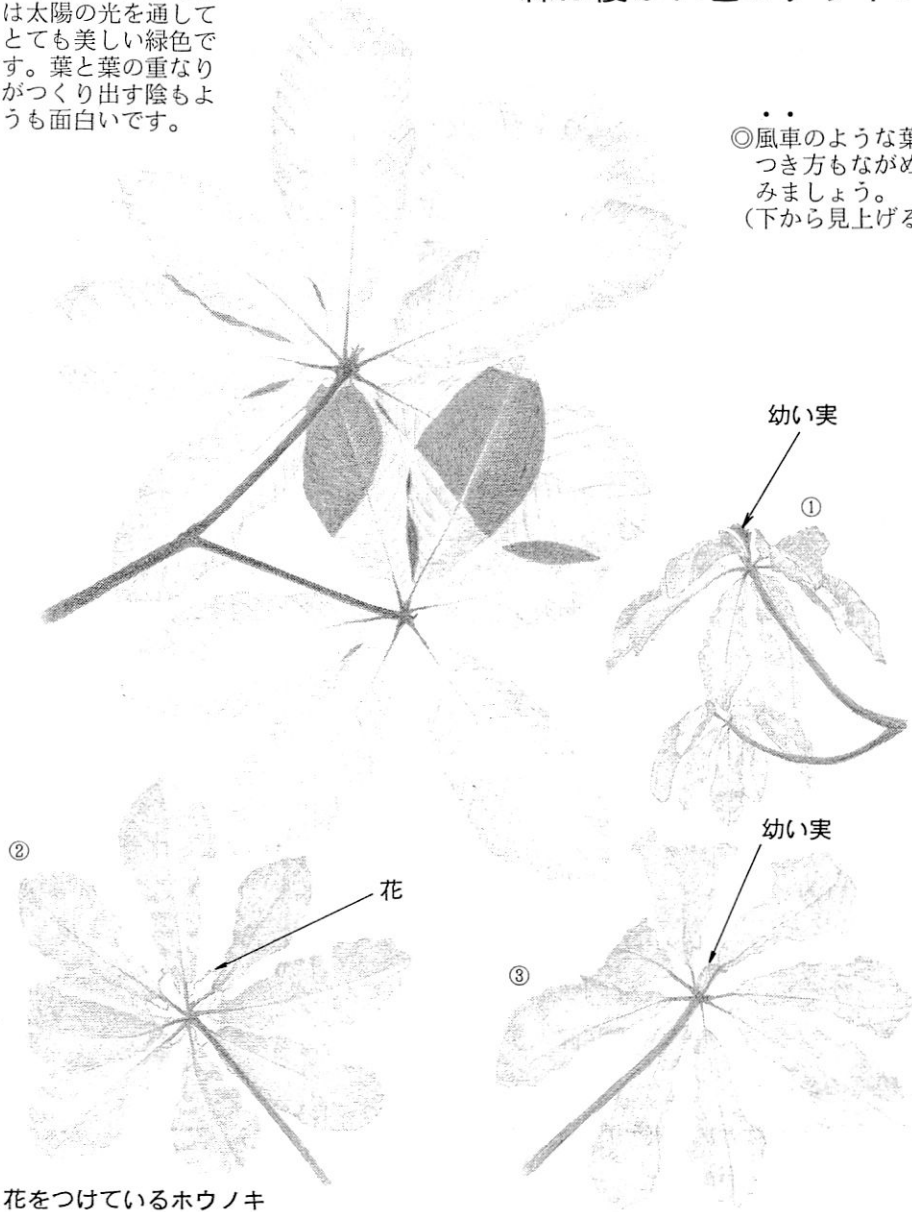
愛知県自然観察指導員連絡協議会

平成2年
11月

◎ホウノキの大きな葉は太陽の光を通してとても美しい緑色です。葉と葉の重なりがつくり出す陰もとても面白いです。

“森は優しい色のブラインド”

◎風車のような葉のつき方もながめてみましょう。
(下から見上げる)



花をつけているホウノキ

※ ①、②、③いずれもシルエット画（下から見上げた姿） 若い実をつけているホウノキ

時鳥（ほととぎす）

「テッペンカケタカ」又は「特許許可局」と一般に聞きなされるホトトギスは、昼だけでなく夜も鳴くことなどから、初夏を告げる鳥として昔から短歌や俳句に読まれてきました。

また各地の民話にもしばしば登場しますので、そのひとつを紹介しましょう。

＜ほととぎすと兄弟＞

昔々、仲のよい兄弟二人が山芋掘りに出かけたとき。だけど、先に帰った弟が山芋のうまいところをみんな食べてしまったと疑って怒った兄は弟の腹を割いてしまったとき。それで、やっと弟が兄のためにまずいところばかり食べていたという真実を知った兄はホトトギスに姿を化し、「おっととこいし、ほうろんかけたか」と毎日八千八声ずつ鳴いたそう……

こうした民話にもとづき、聞きなしも各地で異なり、〈包丁かけたか〉岩手、〈弟腹切っちゃ〉東京、〈弟いるか〉奈良などいろいろです。

一方、昼夜をおかぬ鳴き声が陰気で悲痛に聞こえることから、〈魂迎え鳥〉とか〈冥土の鳥〉とか呼んで、霊界との関係が深い鳥とみなす例も多くあります。

文学界でもしばしば登場し、明治時代の作家徳富蘆花の長編小説「不如帰」や、正岡子規を指導者として1897年に刊行され今なお続く俳句雑誌「ホトトギス」が特に著名です。

私達の協議会でも、「自然と文学」という研修講座を持つと良いと思いますが……

〈北岡明彦〉



ホトトギス成鳥

協議会ニュース30号 目次

- ・ホウノキの木陰で……………（辻 伸夫）……………表紙
- ・季節の話題「時鳥」……………（北岡明彦）…………… 1
- ・会員紹介 15 ……………（松林幸雄）…………… 2
- ・特集 「自然観察会」…………… 3
- ・協議会行事報告…………… 6
- ・支部だより…………… 7
- ・自然と環境NOW
- 「サシバ・シデコブシ」……………（大羽康利）…………… 9
- ・おたよりコーナー……………（北岡明彦）…………… 10
- ・マイ・ウォッチング……………（平井直人）…………… 11
- ・豊田自然観察の森開園…………… 12
- ・会員広場 （佐藤国彦・鈴木成和・会員近況）… 13
- ・行事案内・会員異動・お知らせ…………… 15

“ホウノキの木陰で…”

夏の暑い日射しも広葉樹林の中では涼しく快適です。この森に入ってホウノキを見上げてみましょう。まぶしい太陽も、その葉を通して美しいライトグリーンの優しい光に変わっています。森に住む多くの生ものたちが、みんな望んでいる程良い光と気温の自然環境が、そこに作り出されているのです。森の1本の樹にも、そんな大切な役割があることを私たちは、肌で感じ取ってみましょう。

（辻 伸夫）

私 と 自 然

松林幸雄（監事）



もう20年近くも前のことになるが、長崎県の観光課に勤務していたころ、壱岐、対馬、五島列島の海に潜ったことがある。

当時、自然公園制度の中に海中公園地区指定の制度が取り入れられ、長崎県でも、めばしいところの調査を実施することになり、専門の先生方を現地に御案内し、一緒に潜らせていただいたわけである。

シュノーケリングはそれまで何度も経験があったが、その時は先生方の指導をうけて生れて初めてスキューバダイビングを試みた。

すでにシュノーケリングだけでもすっかり海中散歩の楽しさのとりこになっていた私は、スキューバダイビングによる海中景観の観察に夢中になってしまった。

この時の素晴らしかった海中景観の印象は今でも鮮明に心の底にのこっている。

造礁サンゴは一般に緑とか褐色で、色彩美より形態の美しさがみどころであるが、ソフトコーラルの仲間には色彩の鮮やかな美しさを持ったものがある。岩礁の壁をつたって深く潜ってゆくと美しい紅色をしたウミトサカ類やヤギ類、黄色と黒の不気味な色とかたちをしたウミシダ類などが美しくも異様な海中景観を作り出していた。

この時の体験の影響というわけではないが、私は海に出ると心がなごむ。というよりも心が躍るといったほうがあっているかもしれない。

私は、自然に対峙したとき、山よりもより海に心がひかれるように感じている。これは多分、私が生れ育ったのが大阪湾の海の近くであったため、子供の時の原体験のせいでそうなるのだろうと思う。

かつて私は、国立公園の調査などの仕事にしばらく従事していたので、その間、各地の自然公園

の雄大な景観に出合い、しばしばそれに感動したわけであるが、その場合にも海に対すると山に対すのでは感動の質がかなり異なっていたように思う。山に入っている時はどことなく落ち着かず、山の自然に対して、おずおずしている自分に時として気づくことがあり、山の自然のなかに身も心も浸ってしまうと言うことはなかったようだ。勿論、仕事で出掛けているのであるから、頭の中は持っていた資料や問題点の理解などで一杯で、風景を心から楽しむような気分になれなかったのは当然であるが、それでも出掛けた処が海であれば、仕事のことも忘れるほど海にひきつけられたものである。

私自身の自然に関する知識はごくささやかなものであるが、海の自然に関する知識は陸上の自然に関する知識よりもさらにお粗末である。それでいてより海にひかれるのはどうしてであろうか。

自然と対話する場合は、その対象について知識が深いほど対話もより豊かなものになると考えるのが妥当であろう。そして豊かな対話から、より深い感動が得られる筈である。

しかし、子供の頃に体得したことが、それも知識とはとても呼べないような、殆ど感覚的なものでも、人の感受性に微妙に影響を及ぼし、自然との対話をより豊かなものにしてくれる場合があるのではなからうか。

自然観察において知識も大切であるが五感を働かすことも大切であるという。この五感は、生れながら殆どの人がほぼ平等にもっているものであるが、これとても、その人の過ぎ来し日々の体験が影響し、その働き方はそれぞれに特色のあるものとなっているのかもしれない。



自然観察会

編集委員会

協議会が発足して間もない頃、名古屋支部の行った観察会の後に、「観察指導そのものは決して上手とは言えませんが、皆様方の熱心さにうたれました。」という趣旨の葉書が来たことがありました。初めは、多くの指導員が何もわからないままに、とにかく自然の仕組みや大切さを伝えたいという気持ちだけで自然観察会の指導をしたものでした。

そして、今年は協議会が設立して10年目を迎え、その間に会が実施したり指導員を派遣したりした観察会も150回を越えました。何回か指導に当たった会員は、自然観察に際しても気楽に人前に立てるようになったことと思われます。

しかし、私達の行う観察会は何を目的としているか、参加する人々に何を伝えるべきかを、ともすれば忘れてしまっていないでしょうか。観察指導の方法についても、自然の仕組みや大切さをいかに解かり易く指導するかという技術は検討されているでしょうか。

そこで、私達の行っている観察会の様子を振り返り、もう一度原点に戻って考える手がかりにしたいと思ってこの特集を組んでみました。

1 自然観察会の実施状況

初めに、本年度に実施した自然観察会のうち、参加者の住所・年齢等がはっきりしているものか

表1 住所別参加者数

地 域	東谷山	任坊山	財賀寺	白谷	槇原川
開催市区町	1	2 6	2 4	6	—
隣接市区町	4	3	2 6	2 1	2
同一地域	2 1			4	—
隣接地域	1 9		2	8	1 9
遠隔地			1		5 8
団 体		1 7			
計	4 5	4 6	5 3	3 9	7 9

・東谷山(守山区) 2. 10. 28 ・任坊山(半田市) 2. 6. 3
 ・財賀寺(豊川市) 2. 6. 3 ・白谷海岸(田原町) 2. 7. 22
 ・槇原川(鳳来町) 2. 7. 29 ※ 地域は、支部の区域を示す。

ら、参加者の状況を見てみよう。

(1) 参加者の参集範囲

参加者がどこから来るかは、表1のように観察会の実施場所の状況やPR等により変わってきます。全体的には、大都市からの参加者が多い傾向はありますが、最近は中小都市や町村からの参加者も少なくないようです。

県委託事業の東谷山(守山区)や槇原川(鳳来町)では参集者の範囲は広く、特に奥三河のように自然が豊かで、夏休み中の実施では、名古屋や尾張の各都市からの参加者が多く見られます。

また、協議会主催の任坊山・財賀寺・白谷海岸では、開催地市区町や隣接市区町からの出席者が主になるようです。

(2) 参加者の年齢別状況

次に、表2の参加者の年齢別状況では、小学生がどこでも多い反面、中高校生になると極端に少なくなる傾向がみられます。(白谷海岸では、地元中学生のグループがいたためやや多くなっています。)ここにも受験制度の影響が出ています。

小学生は、家族連れとして参加するのがほとんどで、以前は子供を自然の中に連れ出したいために自然観察会に来る家族が多かったようですが、最近は親の趣味に子供を連れてくるという感じが強くなってきたようにも見受けられます。正確な

表2 年齢別参加者数

年齢区分	東谷山	任坊山	財賀寺	白谷	槇原川
～5才	4	3	3	3	4
6～12	9	2 1	1 1	1 0	1 8
13～19	2	2	2	8	—
20～29	1	—	—		1
30～39	7	6	6	6	1 3
40～49	9	6	1 3	1	1 6
50～59	6	—	5	3	8
60～69	4	1	1 0	5	8
70～	—	1	3	1	2
不 明	3	6		2	9
計	4 5	4 6	5 3	3 9	7 9

表3 参加形態別参加者数

	東谷山	任坊山	財賀寺	白谷	楨原川
夫婦と子供	11	4	15	10	27
父 子	3			2	3
母 子	10	17	5	7	7
夫 婦	6	12	8	2	12
その他家族	3		7		9
個人・友人	12	8	18	18	21
団 体		17			
計	45	46	53	39	79

ことはさらに調べてみないと分かりませんが、いずれにしても家族で自然を楽しめるのは素晴らしいことです。

20代の参加はどこの観察会でもほとんど見られませんが、30代になると子供が適当な大きさになって家族連れという形で参加するようになり、それが40代の前半まで続くようです。その後は、子供の手が離れて、友人とともに参加するという形が主になるようです。

最近では60才を越える高齢者の参加が増えているように思われます。余暇の対象として、自然が見直されているのでしょうか。

(3) 参加者の参加形態

参加形態別状況では、表4のように家族連れの参加者が多く、その中でも両親や母親が子供とともに参加する例が多いようです。しかし、参加者に占める家族連れの割合は以前より減少しているようで、最近では夫婦や友人とともに参加する形が相対的に増えているような気がします。

子供離れした年代から高齢な人が、自然の中で健康づくりを兼ねてやってくるのでしょうか。

2 自然観察会の指導内容

次に、自然観察会のテーマとしてどのようなものが取り上げられてきたか調べてみました。最近の資料がないので、昭和59年から61年の観察会テキスト集から指導項目を拾い出したものが右の表です。

この項目からみると、自然の仕組みに関する一般的な説明が大部分を占めています。私達の頭には、自然観察会では自然の仕組みを教えるなくてはという思いが強いことと、テキストの内容を他の資料から抜いてくるためにこのようになるのでし

よう。しかし、自然観察会は生きた自然を目の前にして観察するのですから、一般的な自然の仕組みも現地の自然の状況から考えることが大切ではないかと思われます。例えば、森の階層構造の場合、始めから「森は4階建てで……」と説明するのではなく、森の上から下まで木の枝が広がっている様子を観察させ、さらに階層に分けると幾つ

自然観察会テキストの項目

森林のはたらき（機能）
 森林の仕組み（階層構造・林縁・林床）
 愛知県の森林（森林の状況等）
 森林の種類（森林の分布・人工林と雑木林）
 樹木の観察（樹皮・冬芽・葉痕・芽吹き・風衝樹形）
 紅葉と落葉（仕組み等）
 遷移（陽樹と陰樹、遷移の順序）
 帰化植物（タンポポ・種類・繁殖場所）
 植物の観察（雑草の特徴・ロゼット・風媒花と虫媒花・花の形・つる植物・竹・シダ・春秋の七草）
 環境と植物（道端・農地・河原・湿原・海岸・尾根から谷の変化・海岸・踏付け）
 種子の観察（どんぐり、種子の散布）
 昆虫（虫こぶ、オトシブミ、ハムシ、バッタありじごく・鳴く虫）
 食物連鎖（仕組み等）
 落ち葉と土壤生物（落ち葉の分解・分解者）
 水生生物（種類・環境指標・魚の種類）
 クモ（網の種類、網の仕組み）
 野鳥（聞きなし・シジュウカラの仲間・水鳥・鳥の動作・渡り・巣箱・鳥と環境）
 動物の足跡（鳥・獣）
 磯・砂浜の生物（種類・生活）
 動植物目録（観察地で見られるもの）
 海岸（環境の特徴・ゴミ）
 ため池（生物、役割）
 景色（景色の説明・土地利用等）、
 地形・地質（地層、地域の地質、中央構造線川の働き）
 その他（音を聞く・古墳・地域の歴史）

になるか考えてみるとともに他の森とも比較するような手順が望ましいでしょう。また、森の機能についても、「ここに森がなかったらどうなるだろう？」という質問から入る方法等が考えられます。そうすると、テキストに一般的な自然の仕組みを書いてしまうことが常に良いとは限らないことになります。

さらに、今までのテキストには、現地の自然の特徴に関する内容が少ないように思えます。これも一般的な事項ではなく、このシイ林は他の場所と比べてどのような特徴があるかとか、この場所に特徴的な生物は何かといった具体的な説明が必要と思われます。下見の仕方が問われるわけですが、今後観察会の参加者に自然の基礎的な仕組みを既に理解した人も増えるとなると、検討すべき課題の一つでしょう。

新しい指導テーマを捜すだけでなく、今迄やってきたことをもう一度考えてみる時期にあるような気がします。

3 他府県の状況

他府県の連絡会から送ってくる機関誌から、どのような観察会を実施しているか、その一端を見てみました。

滋賀県では、昭和63年から8月に伊吹山山頂付近で10日間ほど観光客等を対象とした観察会を開いています。

神奈川県は、昨年度11回程の観察会を行っており、内2回が連絡会主催で他は指導者派遣です。また、本年度はマスタープランを策定することとしており、「身障者・高齢者への対応」「観察会参加者のネットワーク（友の会の設立）」「自然観察会を通じての環境問題」などがテーマとなっています。神奈川県は、以前から身障者のための観察会とかゴミ拾いハイキングなどを実施しています。なお、連絡会主催では参加者が少なく、指導員派遣では指導者が少ないという、本県と同様の悩みもあるようです。

京都府は、元年度に連絡会主催の観察会1回、京都府の委託による観察会5回を行っており、委託分には泊まりの観察会も含まれています。なお、観察会活動はボランティアとしての情熱と使命感

で実施すべきであるが、今後は指導員の報酬について交通費以上のものを支払うことの是非を検討すべきかもしれないとの悩みがあるようです。

埼玉県では、元年度に会主催で県等の後援の観察会7回、指導員派遣1回を実施しています。観察会は、保険料、資料代として300円程度の有料出行われています。

4 今後の課題

私達の会が、自然の見方や自然の大切さを多くの人に伝えることを目的としているなら、主要事業である自然観察会については、その内容等についてもっと検討することが必要と思われます。

(1) 目的意識をもった観察会を

自然観察会は、参加者に喜んでもらえる楽しいものであることが大切ですが、それとともに参加者に何を訴えるか、何を知って欲しいのかという目的意識を、会としても、個人としても持って実施したいと思います。

(2) 観察会の対象者

今後は高齢者の増加、中級レベルの要求等が見込まれることから、観察会の指導方法、テキストの内容、班分け等に工夫が必要でしょう。また、身障者を対象としたもの、宿泊観察など分野を広げる必要はないでしょうか。

(3) 開催場所

今後は観察会のテーマを始めに考えて、それから場所選びをすることも必要でしょう。特に、自然観察会の大切な役割である身近な自然の大切さを伝えるために、ありふれた場所で小さな観察会を何回も行うことなども必要と思われます。

(4) 指導内容

どうしても説明調になってしまう指導方法について検討を重ねる必要があります。指導員講習会で強調された、①五感を使って観察する、②マクロの目で観察する、③時間の軸で見てみる、④名前にこだわらない、⑤採らないで観察する、⑥人間生活との係わりを考えるなどの事項について、それが何故大切かを改めて考えてみるのが大切でしょう。

協議会行事報告

運営委員会 2. 4. 21 (中社会教育センター)

出席 8 名。〔議題〕①全県一斉観察会の内容の検討。②協議会 P R パンフレットの内容検討。③自然観察指導マニュアルの検討。④協議会の今後のあり方についての検討。10 周年を迎える今年は、より充実した活動を行う会にするため協議会の組織体制等を見直すこととし、意見交換を行った。観察会の指導者育成、会と支部の関係の明確化等が話題となった。

理事会 2. 5. 19 (名古屋市教育館)

出席 13 名。〔議題〕①協議会 P R パンフレットの内容決定。②協議会の 10 周年記念行事の方向の検討。③協議会の今後のあり方について検討を進めることを確認。

全県一斉視察会 2. 6. 3

小幡緑地、善師野、任坊山、洲原公園、財賀寺の 5 カ所で「森を観察しよう」をテーマに実施し、参加指導員 47 名、一般参加者 279 名であった。

運営委員会 2. 6. 16 (産業貿易館)

出席 7 名。〔議題〕①協議会の 10 周年記念行事の検討。②協議会の今後のあり方についての検討。前回の運営委員会に続き、自然観察会や協議会の組織について意見交換を行う。会の事業執行体制の充実を考えているが、もっとフリーな会してはとの意見もあった。

運営委員会 2. 7. 21 (名古屋市教育館)

出席 5 名。〔議題〕①協議会の 10 周年記念行事の検討。②協議会の今後のあり方についての検討。運営委員会の事務を分割して普及部会・調査部会・編集部会・運営部会を設ける方向ですめる。

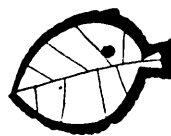
理事会 2. 8. 18 (中小企業センター)

出席 11 名。〔議題〕①協議会の 10 周年記念行事の内容の決定。②協議会の今後のあり方について意見交換。河合雅雄先生を顧問に依頼する。③平

成 3 年度事業の進め方を検討。④その他、自然保護協会の助成(調査と研修)を申請すること。

運営委員会 2. 10. 27 (名古屋市教育館)

出席 8 名。〔議題〕①協議会の今後のあり方についての検討。指導員手当、支部配分金、事業のあり方等について検討した。
②平成 3 年度事業の方向について検討。おおむね従来の事業を継続することとする。



「協議会 10 周年記念大会」実施

昭和 56 年 4 月に発足した私達の愛知県自然観察指導員連絡協議会は、今年 10 年目を迎えたため、これを記念するとともに、会員の親睦を図ることを目的に 10 周年大会を実施しました。その概要は次のように、本会としては盛大に行うことができました。実行委員長の浅井聡司さん始め多くの方に感謝します。

なお、詳しい内容は、次の機関誌の 10 周年特集号でお知らせします。

◆期日・場所

平成元年 9 月 9 日(日)

名古屋市観光会館(名古屋市中区)

◆内 容

第 1 部 講演会等「こどもと身近な自然」

講師：河合雅雄(日本モンキーセンター所長)

第 2 部 ミニ討論会「身近な自然の活用」

司会：浅井聡司

発表：金森正臣、大竹 勝、竹内秀代

討論：相地 満、間瀬美子、松尾 初

○第 3 部 懇親会(立食パーティ)

○その他 会場でスケッチ、写真等の展示

◆参加者

○第 1 部・第 2 部 121 名

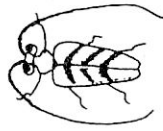
○懇親会 49 名

◆関連行事 「スケッチコンクール」

○応募点数 81 点(40 名)

○入賞 13 名(うち会長賞 1 名)

支部だより



名古屋支部

今年は、3月から毎月第2日曜日に、平針の針名神社から荒池にかけて隔月観察会を実施しています。参加者は3～6人位とさびしいけれど、毎回テーマを設けて、身近な自然の状態をつかもうと考えています。

3月は、「林の種類」をテーマに、林の構成樹種を調べました。針名神社はアベマキ・コナラ林で遷移が進んでサカキ、アラカシ等が混じっています。秋葉神社は一応シイ林ですが、シイは10本位でしょうか。その他丘陵部がアカマツ林でヒサカキ、ソヨゴ、ネズミサシを混じえています。

5月は、花の形に注目して、咲いていた花を形態別に分類してみました。結果は、小杯状花がハコベ等9種、皿状花がジシバリ等7種、旗状花がシロツメクサ等4種、ロート状花がムラサキカタバミ等3種、その他は管状花2種、垂下型2種、4形態で各1種でした。この花の形の分類は意外と困難で、訪花昆虫の状況ともあわせて検討する必要があります。

7月は、ベイトトラップを3種の森に設置して様子を見ました。結果は、アベマキ林4種、シイ林2種、マツ林1種と少ししか入りませんでした。が、すべてに共通したのはコブマルエンマコガネでした。

9月は、帰化植物率を50cm方形枠を使って調べてみました。結果は、道端18%、空地（セイタカアワダチソウ群落）33%、空地（キンエノコロ群落）50%、マツ二次林0%でした。種数による帰化植物率は、少し場所が変わるだけで大巾に変わるため、同一群落又は同一環境ですべての種を調べるか何カ所か方形枠を置く必要があるようです。

各回とも簡単な調査ですが、調べることによって自然のしくみの秘密を垣間見た気がしますし、また調査の方法にも工夫が必要なのも分かります。これらをうまく使えば自然観察会にも生かせそうです。（佐藤国彦）

尾張支部

5月13日(日) 月例観察会 瀬戸市猿投山

テーマは「初夏のツツジ」で、大人9名子供2名の参加がありました。

曇り空で、山登りには絶好の一日で、午前9時50分頃、東大演習林赤津事業所を出発しました。元東大演習林職員の塚本先生が参加してくださりコースの案内から各樹種の特徴まで説明して頂き心から感謝しております。

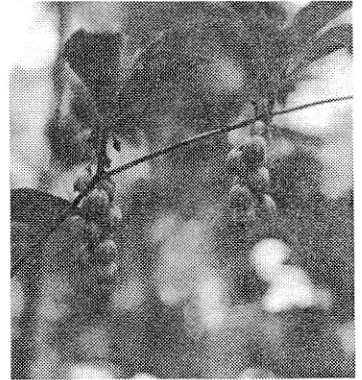
標高 300 m (小長曾古 付近) ……スズタケ・タムシバ出現 ……林道終点後は険しい山登り

標高 340 m ……アカガシ・ツクバネ出現

標高 360 m ……ツガ出現

標高 400 m ……カイナンサラサドウダン・ダイセンミツバツツジ

出現。このあたりの高木層はアカマツ・ツガ・ゴヨウマツ・アカガシの混生林となっており、亜高木層はカイナンサラサドウダンが優占し花



は丁度見頃でした **カイナンサラサドウダン**

た。花の色は淡緑色が多く、外に淡いピンクから紅色まで見られ、緑の花もしっかりと落ちついていて良いものだと思います。

標高 550 m ……シロヤシオ出現 ……東海自然歩道

標高 600 m ……イヌブナ出現

標高 629 m 山頂 ……ミズナラ出現

このように、樹木の垂直分布がはっきり確認できるのが、猿投山の特徴といえましょう。

今回の猿投山北面直登は観察会というより登山でした。皆さんお疲れさまでした。（日比野修）

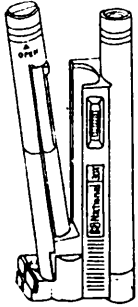
6月3日(日) 全県一斉兼犬山市委託観察会

毎年恒例の犬山市自然観察会が去る6月3日に無事終了しました。当日の参加は子供会を中心に130名程で、素晴らしい晴天のもと楽しい1日を過ごしました。

犬山市職員の注意事項、大竹会長の観察のポイ

ントの説明を聞いたあと、6つの班にわかれて善師野駅を出発しました。各班には2～3名の指導員がつきましたが、毎回ながらこれだけの指導員を集めるには電話攻勢などで大変でした。

途中の白山神社では土壌動物の観察の時間をとりました。簡易顕微鏡や単眼鏡を数多く準備し、



強力な武器

子供たちが自分たちでそれぞれ採集した土壌生物を拡大して見ることができました。はじめはおそるおそる腐葉土にさわりながらダンゴムシやヤスデをながめていましたが、数分もたたないうちに腐葉土をかきわけ、キャアキャアいいながら土の中の生物を捜していました。

大洞池では、数日前からしかけておいたベイトトラップを披露しました。ゴミムシSP・ミカワオサムシ・ヨツボシモンシデムシ・センチコガネなどがかかっていたのですが、なかにはカブトムシと間違える子供もいて、なかなかにぎやかに観察していました。

昼過ぎには子供たちとも大いにうちとけ、いろいろな質問が出されたり、日頃の生活ぶりを教えてくれたりで、解散時も名残りを惜しみました。

子供たちはやはり遊びの天才です。虫を自分たちの遊びの仲間ひきいれてしまう、そんなエネルギーを感じました。将来の自然の守り手である彼らの身近に、遊べる自然を残してやりたいと切に願った1日でした。(吉田義人)

西 三 河 支 部

6月3日(日) 全県一斉自然観察会

西三河支部の観察会は、洲原公園から小提西池に至る間で実施した。

洲原神社境内に集合、参加者は34名、神社境内林の状況を観察後、前日にしかけたベイトトラップと境内林床の落葉層50cm×50cmを採取し、ふるいにかけ、昆虫等を取り出し、シデムシ・ゴ

ミムシ等の働きを観察した。

その後、小提西池にいたる雑木林等の自然を観察しながら、小提西池へ、カキツバタの花は、今年はすでに終わっていた。

中西氏から、カキツバタ群落の状況、保護対策の方向について説明を受けた後、観察の取りまとめを行った上、オオヨシキリの声にお送られながら解散した。(安井貞夫)

東 三 河 支 部

4月29日(日) 愛知県委託自然観察会 豊橋市岩屋観音寺、一般参加109名、指導員17名、2回の下見で準備OK、本番には空模様が思わしくなく心配したが、予想外の出席でした。観察会を行っている間は天気ももち直り、終了間際に雨に合い、視聴覚センターのご好意で講堂を借り、まとめを行って盛会裡に終了しました。アンケートに見る参加者の声の一部、自然はすべてサイクルで生存しているものであり、どのセクションでも一度傷つけば自然は破壊されることを学んだ。ゴミの持ち帰りの大切さを知った。自然を見る楽しさ、見る目が変わった。交通の便を考えてほしい。県等でバスを出してほしい等々。

5月20日(日) 会員研修 鳳来寺山を歩く

参加者9名ではあったが、楽しく自然にふれた会でした。中西さんの子供さんに負けないよう頑張った年配者2人…落伍者のレッテルを張られずヤレヤレ

6月3日(日)全県一斉自然観察会豊川市財賀寺

一般参加53名、指導員11名、観察会の度毎に参加人員が増える傾向で嬉んでいます。指導員も一方通行的な説明に終らぬよう努力をしているが、終了時のアンケートによって反省しています。一部の方の声・森の中に住む、いろいろな生物にはそれぞれ分担があって、想像出来ない自然の仕組みを教えていただき、分つてしまえばなんでもない森がいとおしく思われます(50才女)。森のサイクルがわかった。もう少し参加者の意見交換の場がほしい(60才男)。等々

(武田孝夫)

サシバ・シデコブシをいつまでも……

(東三河支部 大羽康利)

1 渥美の山林に生息する生き物たち

渥美半島には渥美町から赤羽根町・田原町にかけて10数平方キロに及ぶ山林が存在しています。この山林はアカマツなどの二次林が主体となっていますが、山林内には原生林と呼ぶのにふさわしい照葉樹林が何カ所も残されています。越戸大山のタブノキ林、泉福寺のスダジイ林、鮎川上流部に広がるウバメガシ林などがその代表です。

山林内にはシデコブシ・シラタマホシクサなどの自生する湿地が10数カ所現存しています。これらの植物は東海地方の鮮新世～更新世起源の丘陵などの低湿地にのみ生育しているもので、「東海丘陵要素」と呼ばれています。そのほとんどの種が、「絶滅に瀕する大変危険な状況にある。」と、昨年まとめられた「わが国における保護上重要な植物種の現状」で指摘されています。

ところで、伊良湖岬はサシバ・ハチクマなどのタカ類、小鳥類の渡りの重要なルートとなっています。万を越えるタカ、何百万羽にもものぼると推定される小鳥類が上記山林を通過し、また休息して行くのです。「タカ渡り調査事務局」代表の武田氏は「(こういった渡りの) ルートは渡り鳥の生命線と言っても良いのであり……。欧米では中継地の保護も進んでいる。」と述べています。(アニマ90年5月号)

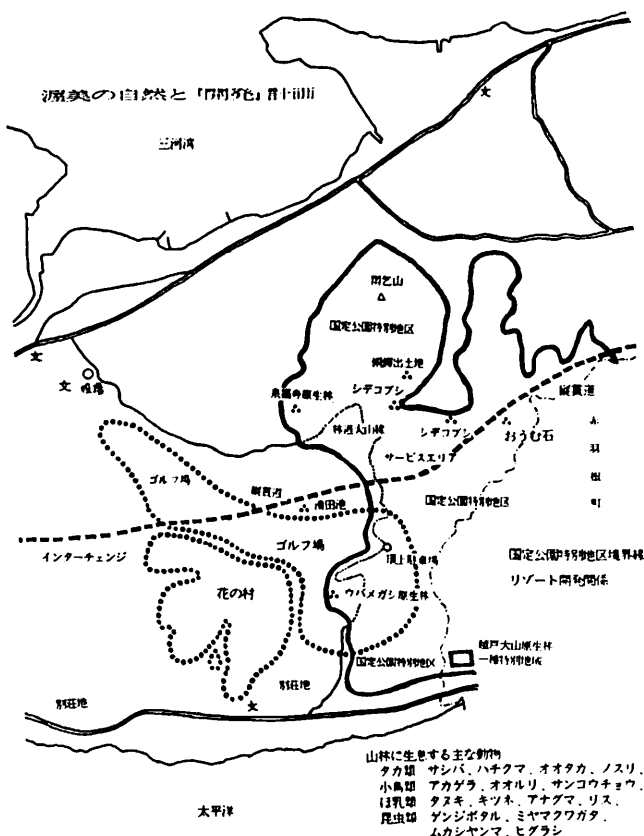
サシバ・ハチクマが山林内で繁殖していることは数年前からわかっていますが、今年の観察でオオタカの繁殖も確実視されるに至りました。フクロウやアカゲラ・オオルリやサンコウチョウなども繁殖しています。越冬する野鳥は繁殖鳥よりもはるかに多く、ノスリ・オオタカ・ハイタカ……、小鳥類ではウグイス・メジロ・アオジなど

数10種類に及んでいます。

昆虫類では渥美半島全体で、チョウ類35種、トンボ類21種などが確認されているとのことで、前記山林内ではハッチョウトンボ・ムカシヤンマ・ミヤマクワガタ・ヒメボタル・オオゴキブリなども確認されています。ほ乳類でもキツネ・タヌキ・アナグマ・リスなどが棲息しています。

2 リゾート「開発」計画と保護への取り組み

これら渥美の山林のかなりの部分は、「三河湾
国定公園特別地域」に指定されており、「豊橋渥
美広域市町村圏協議会」の計画でも、「自然保全



地域」とされていたり、「愛知の自然環境」（愛知県発行）にも「これ以上の開発工事は中止すべきである。」と述べられているなど、本来、人と自然とが触れ合う場としてこのまま後世に残されるべきものです。

ところが、「伊勢湾架橋のためには渥美縦貫道がどうしても必要である。」と県から促された渥美3町などはこの山林の中央部を通過するルートを地元案としていました。現在、これを元に県が詳細案を検討中です。

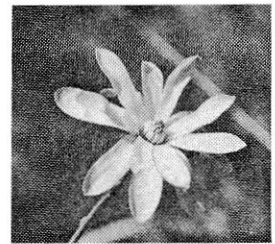
昨秋に発表された「渥美リゾート開発」計画ではこの山林に大規模なゴルフ場構想を打ち出しています。また渥美町は本年度予算に国定公園特別地域内に「林道」を新設する予算を計上しました。現在そのためのアセスメントが実施されています。

こんな事態の中で88年7月「渥美自然の会」が結成され、こういった計画を中止するようとの要望を繰り返しています。本年4月末にこれまで機関誌「渥美の自然と保護」をお届けしてきました

した団体に知事宛の要望書をお願いしたところ、20を超える団体が応えて下さり、6月1日にまとめて知事に手渡しました。この団体には「東三河自然観察会」「三河生物同好会」など地元自然関係の団体はもとより、「日本野鳥の会岐阜県支部」「浜松サンクチュアリ協会」「北海道自然保護協会」など県外の団体も多く含まれています。渥美半島の自然の重要性が多くの方々にお認めいただけていることを大変嬉しく思っています。

皆さんの所属されます団体からも要望書の提出していただければ幸いです。是非ご連絡をお願いいたします。

「渥美自然の会」は観察会や調査、町への協力なども行っているのですが、紹介できませんでした。自然保護協会発行の「自然保護」90年9月号にも私達の活動が紹介されますので、ご覧いただければ嬉しく思います。



貴重なシデコブシ



おたよりコーナー

三重県自然観察指導員連絡会総会に参加して

尾張支部 北岡明彦

頑張っておられる状況がわかります。

いろいろなお話の中からは、南北に長い三重県全域に広がる指導員の絶対数不足と、活発に活動している他団体との関係等に大きな問題点がうかがわれました。総会の出席者は約15名と若干少ないようにも思えました（我が愛知県協議会総会の出席率14%よりずっと上です！）が、発言は活発で、会の若々しさを感じられうらやましく思いました。

本年度にも指導員講習会が開催され会員数の倍増が見込まれますので、来年以降の活動が多いに期待されます。

愛知・三重・岐阜・静岡の東海4県の協議会のブロック大会を開き、活動発表や討論を行える日が近いことを感じました。

去る4月22日(日)に私達の隣人である三重県自然観察指導員連絡会の第2回総会が開催され、講演会に御招きいただきましたので、その状況等を皆さんにお伝えします。

三重県の連絡会は平成元年3月12日に発足した若い会で、63年度に初めて開催された指導員講習会を受講した指導員を中心に約50名の会員が活動しています。

会費は年1,000円で、活動内容は、①資質向上にかかる研修等の開催 ②自然観察会等の実施及び参加 ③自然に関する調査及び情報収集等となっています。

元年度の活動は、観察会6回(共催を含む)研修会1回、運営委員会3回、総会1回が実施されており、少人数の指導員として精一杯

八事裏山の夏が始まる

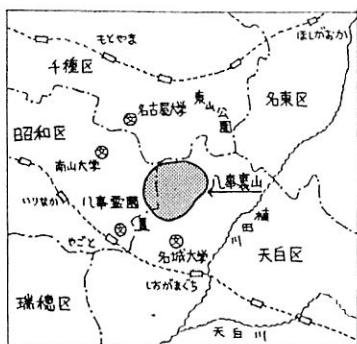
平井直人（尾張支部）

名古屋市東部には広く丘陵地帯が広がっています。その一角、東山公園と八事霊園にはさまれた地域に、通称八事裏山と呼ばれている丘陵地があります。

八事裏山の樹木は高木層としてコナラ・アベマキ、低木層としてアラカシ・ヒサカキなどで構成されており、本当に雑木林（ざつぼくりんではない）という感じです。尾根に出るとコバノミツバツツジ・シャシャンボ・ネジキなどのツツジ類が多く、ソヨゴやアカマツも目につきます。低地には湿地が何ヶ所もあり、大きなものから、近寄って見ないとわからない様なものまでいろいろです。斜面に降った雨がわき出して池になっている所もあります。

早春はヒサカキの花の持つ独特の香りから始まります。いい香りなのか、変な香りなのかはその人しだいという押しつけがましくないところがいいですね。そのうちにコバノミツバツツジのやさしい桃色の花があちらこちらに見られ華やかになります。

この頃、山の斜面から染み出して出来た水溜りには、ひも状のヒキガエルの卵がたくさん見られます。その卵の中にまじ



八事裏山周辺位置図

って、クロワッサンの様な形をした卵塊がほんの少数目につきます。この卵塊もヒキガエル同様透明な寒天状の物の中に黒い卵がたくさん入っていますが、なにしろ形が全く異なっています。これがトウキョウサンショウウオの卵塊です。寒天はヒキガエルのものよりもしっかりとできており、手ですくっても、全く形は壊れません。名古屋市



水中のクロワッサン

'89・3・10

トウキョウサンショウウオの卵塊

東部丘陵では、昔は東山公園や名古屋大学構内でよく見られたと言うことですが、現在はどうなっているのかわかりません。

4月も近くなってくると、落葉だらけの茶色い地面からも赤紫色の花が顔を出します。葉を地面からピンと立てて、ういういしい姿のアキノスミレです。同じところに咲き出す紫色のスミレでは他にニオイタチツボスミレがありますが、こちらのスミレは葉も花も柔らかい感じがしてマキノスミレとは対照的です。マキノスミレが終るころになると、次は小さな白いスミレの出番です。フモトスミレです。小さなスミレですが花は独特で、白い花の中心部に紫色のすじ模様を持っており一目でそれとわかります。葉の模様もまた独特で、すてきな感じがします。湿地ではまるで空の色が映っている様な気がするほど空の色をした青い花が咲き出します。ハルリンドウです。ここには定光寺の様な力強い群落はなく、ひそやかに咲く姿があります。

丘陵地全体の木々も新しい葉を広げ鮮緑色に輝き出すところは夏鳥の渡りの季節です。長旅の疲れをいやすために八事裏山でも新緑の葉の中でオオルリ・センダイムシクイなどのさえずる姿が見られます。薄暗い所ではヤブサメのシシシ…という声が驚くほど響きます。運が良ければ枝に横たわるヨタカの姿を見ることもできます。しかし一番



八事裏山丘陵地の風景

感激するのは意外にもウグイスです。静かな早朝に響き渡るウグイスのさえずりを聞くと、高原の朝を歩いている気分になってきます。

花もツクバネウツギ・エゴノキ・コバノガマズ

ミ・ネジキなど次々に咲き出します。

初夏を過ぎると、池にはヒツジグサの白い花、ヒメコウホネの黄色い花が顔を出します。木々の緑は深緑色へと変わり夏へと変わっていきます。

夏は昆虫たちでにぎわいます。樹液にはコクワガタ・ヒラタクワガタ・カナブン・スズメバチなどが集まり、池にはヤンマが飛び回り、耳にはヤブカがプーンと飛び回ります。そして、梅雨があける頃にはセミの鳴き声がワーんワーんときき出します。

このように八事裏山は私達の身の回りにある極くありふれた自然ですが、そこには素晴らしい生物達の営みがあります。この身近な自然がいつまでも残されるといいですね——。

豊田市自然観察の森開園

豊田市自然観察の森の開園記念式が6月26日に行われました。

この自然観察の森は市役所の東北東約4km、鞍ヶ池公園の西南西に位置し、標高70～140mの丘陵地にあります。

面積は約21.5haで、起伏に富んだ地形の中には池や湿地帯もあります。

この森には特に貴重な群落があるとか、珍しい動物がいるということはありません。このあたりならどこでも普通に見られるコナラ林、アカマツ林、スギ・ヒノキの人工林、竹林等で、そこに生育する身近な植物や昆虫・野鳥を観察する場で

す。また、池や湿地でも様々な動植物を観察することができます。

年末年始と月曜日が休園日です。

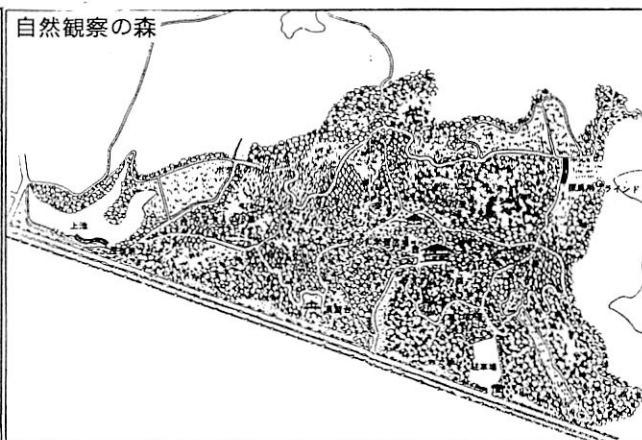
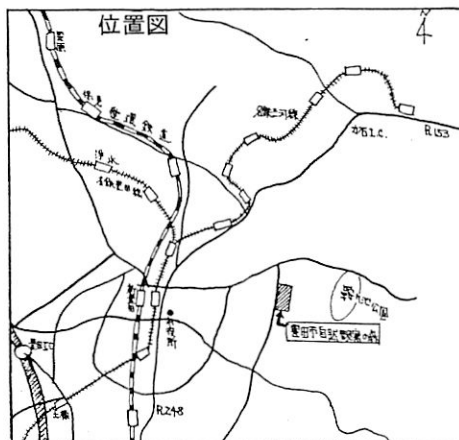
4月～9月までは午前9時～午後5時30分

10月～3月までは午前9時～午後4時30分

利用する場合の手続き

＊ 自然観察の森で計画する観察会以外で、各団体等が観察会を行う場合利用日の前日までに、申請書を提出し許可を受ける必要があります。

＊ それ以外の来園者は、自然観察の森の受付において許可を受けます。



会 員 広 場 (第2回)

つまらなくなる山登り

佐藤国彦(名古屋支部)

山登りには、いろいろな楽しみ方があるでしょうが、最も大切なのは日常の便利で文化的な生活から離れて、雄大で美しい自然に浸ることと思われま

す。そのためには都市の便利さや快適さを山へ持ち込まないことが大切です。座して明るい部屋の中でいつもと同じ食事を採るよりも、薄暗いランブの下で、疲れた体で作った粗末な食事を採ることの中に山の生活があると思われま

す。雨の中でのテント生活や厳しい寒さの中での一夜などを通じて、山や自然が理解できるのということもあるのです。

尤も、全ての人がそんな山登りを望んではいないでしょうが、そんな日常生活から離れた山登りができる場も必要と思いませんか。

また、山に登るとき、山麓では山里の人々の暮らしやその地域の風情を楽しみながら、山懐に入るという気持ちになり、中腹では深い原生林や溪谷の自然を楽しみ、稜線では雄大な景観や山の厳しさを味わうなど、登山は山全体を通して山と触れ合うことが大切なものです。

しかし、今では交通が便利になって、山麓は車の中から眺める程度で、いきなり山の中腹に入ってしまう。便利なのは忙しい我々にとって好都合ですが、何か抜け落ちた感じは否めません。過程を大切にすることは必要ではないのでしょうか。

また、山中深く入って行く林道や、人工林化の進行も山を大変つまらなくしています。長い林道歩きをしなくては山へ入れなくなったり、四季折々の変化を見せていた林がなくなって、単一の植生に変わっていくのは残念なことです。こうした変化も山村の生活を支え、都市並みの暮らしを目指すためには必要なことでしょう。でも、その一方で山がつまらなくなっていくのも事実です。

山登りがいろいろな意味で自然と自己との係わ

りの場であることを止めて、物見遊山の場になってしまうのは、とても残念なことであるとともに気になることでもあります。

口の中の環境悪化

鈴木成和(尾張支部)

地球規模での環境問題が叫ばれ、深刻化しつつある今日この頃です。ここでは、視点を少し変えて私達の口の中の事を取り上げてみます。

ここを一つの環境として捉えた場合、ここにも一種の環境問題といった事態が見られるからです。

ご存じの様に、私達の大多数が歯科疾患(虫歯・歯周病)を有しています。逆に、これらの疾患の全く無い人は極めて稀であるとも言えます。

さて、これを野生動物について考えてみますと、一般にこれら疾患は存在しなく、歯列も正常なものばかりです。しかし、これも餌付けが行われると事態は一変して、ペット、家畜に到っては、歯周病等の疾患が増加傾向にあり、歯列の乱れも現れています。

以上のことから、この疾患は人間により作られた環境に伴い発生する一種の文明病ともいえます。

現在の環境(この場合食環境)は、旧石器時代から基本的に変化していない人類の体(この場合咀嚼器)に、望ましくないものに成りつつあると言えます。

虫歯、歯周病は、口腔内の特定の菌の異常増殖に由来するとされています。これらの菌の大多数は、健康な口腔内にも存在する常在菌ですが、口腔環境の変化で、局部的に異常な増殖が起き、それに伴う酸や毒素が病変を引き起こすのです。

糖分(特に蔗糖=砂糖)の長時間摂取等は歯牙表面を溶かすに十分な酸度に到らしめるため、特に多量摂取は謹む必要があります。

また、近年、咀嚼器官の未発達に伴う咬合病(顎機能異常やこれに伴う体の歪み等による症状)が急増しており、第3の歯科疾患として問題化しています。器械的清掃だけでなく、食生活も振り返らねばならない時とも言えましょう。

〔 会員近況 〕

- 夏休み中は、ずっと身近な生き物調査に明け暮れておりました。名古屋市内にもコシアカツバメがかなり営巣しているのにびっくりしました。クマゼミも市内に多いようです。

(秋山敬子)

- 音羽町に公害対策審議会ができ、委員になりました。

(石原伯和)

- 学校教育の中にも、もっともっと自然を大切にする教育が必要と感じます。(岡田 速)

- 夏休み中は、知床へ行ってきました。エゾシカやキタキツネ、ケイマフリなどの動物と出会ってきました。(小木曾 浩)

- 町内の人とともに、町内の自然保護(特にカジカ・ミズゴケ・ササユリ・野鳥・灌木林)を「ふるさと創生」の一環に取り入れるよう提案しています。(荻野正樹)

- 環境庁の身近な生き物調査を楽しんでいます、今年の暑さで生物が少ないのが残念です。

(落合宏一)

- 地球的な環境破壊、身近なところでは長良川河口堰などの自然破壊に心を痛めています。

(川崎慶子)

- 家の前の空地が駐車場になってしまい、日常生活の中で、草花・虫などを見ることが少なくなった。わざわざ出かけなければツユクサも見られない。虫の音もめっきり減りました。

(榊原秀子)

- 学校周辺や大高緑地の植物の標本をつくっています。イネ科の同定が難しく手に負えません。

(鈴木 豊)

- 今年の夏は、豊かな自然を求めて出かけるこ

とはできませんでしたが、庭に現れる虫たちの話声に耳を傾けて楽しんでいます。(竹内秀代)

- PH計、DO計、塩分計を入手して、藤前干潟のデータをとっています。9月末には1昼夜調査します。(武田 篤)

- 今、ローレンツ先生の動物行動学と比較しながら行動主義の心理学を学習しています。

(多和田政彦)

- シギ・チドリの秋の渡りを見るのが楽しみです。今年かえったばかりの鳥が、数千キロと渡っていく生命力に感心します。(戸河里光雄)

- 今年の夏は、東三河の滝を探してみました。案外と身近にあるものです。(中島芳彦)

- ウシモツゴの保護のための調査、豊田の地質の執筆など忙しい毎日です。(中根鉄信)

- 鳳来町山吉田の自然と文化を追っています。日本ザルのアニマルロアの発見もあります。

(広瀬 鎮)

- ローカルに自然観察会のまねごとをしています。ここ1・2年の間にアウトドア志向の人が増え、毎月の探鳥会にもぎやかになってきました。(松原知永)

- 7月末に自然公園指導員の再任の辞令が、環境庁から自然保護協会経由できました。指導員は、70才定年なのですが、特別です。77才ですが頑張ります。(三ツ石 清)

- パルコでやっているアース展に言ってきました。とても閑散としていて、ちょっぴりさびしかったです。もっとNACS-Jの宣伝をしたらよいと思います。

(村田由紀子)



行 事 案 内

12.16 知多支部 観察会「冬の野鳥」 武豊町自然公園駐車場 集合 9:30
12.16 豊田市自然観察の森観察会 「冬鳥の観察」 9:30集合
12.19 名古屋支部等 月例会 名古屋市教育館 18:30 (栄交差点北)
1.13 名古屋支部 隔月観察会(平針) 針名神社 9:30集合(午前中)
1.13 尾張支部 月例観察会 善師野駅 9:00集合(午前中) ※ 午後:尾張支部総会
1.19 名古屋支部等 月例会 名古屋市教育館 18:30 (栄交差点北)
1.20 豊田市自然観察の森観察会 「土壌生物の観察」 9:30集合
1.27 知多支部総会 東海市農業センター 10:00
1.26~27 西三河支部 懇親会・総会 刈谷勤労福祉会館 26日懇親会 27日午前中総会

会 員 異 動

〔加入〕 中村 京子(尾張支部)
鈴木 晃子(名古屋・知多支部)
蟹江 雄幸(知多支部)

お 知 ら せ

◎ 協議会の活動について

協議会では、10周年を契機に、安定してより充実した活動を図れるよう、会の組織・運営方法を再検討しています。

そのためには、会の事務等を分担するとともに多くの方の知恵や力を集めていく必要があります。どんな形でも問いませんので、会の運営・事業に協力してやろうという方があれば、佐藤国彦までご連絡下さい。

〔編集後記〕

暑かった夏もいつの間にか通り過ぎて、もう年賀状を書こうかという頃になりました。会員の皆様の今年はいかがでしたか。いい自然にたくさん逢うことができたでしょうか。

環境保護という言葉がいろんな所で聞くことができた年でした。言葉だけでなく、皆で守っていくようにしたいものです。保護が反故にならないように。

またまた協議会ニュースが遅れてしまい、申し訳なく思っています。素敵なお紙絵を描いてくださった辻さんや早目に原稿を書いてくださった方に申し訳なく思っています。

来年こそは、機関誌の形を見直して、会員の皆様に確実に情報を流すことも検討しているところです。また、手を貸してやろうという方があれば歓迎します。

次号は、2回分の合併号として、1月に10周年記念号をお送りする予定です。

(佐藤国彦)

発行: 愛知県自然観察指導員連絡協議会
(連絡先)

愛知県愛知郡日進町南ヶ丘2-18-11
佐藤国彦 方